



# 手話サークル研究班



～ 「手話」は聴覚障害者にとって大切な言葉です ～

## ～ 「手話サークル研究班」の思い ～

メディアや地域で開催されている手話講習会の影響で手話に興味を持つ人たちが増え、「手話」に対する理解は確実に広がってきました。

でも、「手話」への理解が広がること、「聴覚障害者」への理解が広がることは、イコールではありません。

手話に関わる時間、年齢等々、さまざまな条件の人たちが集うサークルでは、当然手話技術レベルはまちまちだと思いますが、そこにこだわる前に「手話」を健聴者の自己満足な趣味に終わらせることなく、学んだ手話を通して「聴覚障害者と共に歩む」ということが大切だと思います。

「手話サークル」の役割は、学んだ手話を通し、ろう者と交流しながら「手話」と共に「聴覚障害」に対する理解を深め、聴覚障害者と地域をつないでいくことだと考えます。

## ～ 「手話サークル研究班」のプロフィール ～

☆2004年4月、9名のメンバーで発足。

☆神通研集会・分科会「手話サークル」の運営を担当。

☆その他、神通研・関東通研・全通研の行事、集会に参加。

☆2007年7月現在、川崎3、横浜3、県域11 計17名で活動中!!!

## ～ '06年神通研集会第1分科会報告 最終～

### ～ 助言者からの一言～

手話を始めたばかりの人は、どうしても手話で会話することを遠慮してしまうようだが、ろう者は勘が良いので未熟な手話でも読み取ってくれるし、相手のレベルに合わせた手話を使ってくれる。プライドは捨て、上手、下手ではなく、わかり合いたいという気持ちが大切。

手話を始めたきっかけは何でも構わないが、サークル活動をしていく中で、何が大切なのかに気が付いてほしい。

ろう者との付き合い方、サークルのルール等は、経験者が次の世代の人たちに伝えていって欲しい。

行事等に参加し、サークルを飛び出して、サークルの学習だけでは得られない経験を積み重ねて欲しい。さまざまなろう者と交流することで、言葉としての手話を身に付け、聴こえない障害を理解し、社会に発信していって欲しい。

ろう者と健聴者、通じないところからお互いの努力が始まる。エネルギーは使うが、少しずつ通じるようになっていくことが嬉しい。

分科会で話し合われたこと、参考になったことを地域のサークルに持ち帰り、まずは周りのサークル会員に伝えて頂きたい。

そして来年もこの場所でお会いしましょう!

## ～ 定例会 ～

\* 6/30 (土) 定例会を行いました\*

午後開催する「災害」をテーマにした「サークル研究班」主催学習会の最終確認と、9月の集会に向けた準備に入りました。

昨年の集会以後、取り組んできた「災害時、サークル会員に出来ること」については、昨今発生している災害の影響もあり、高い関心が示されています。

学習会では、災害時、公的援助が最小限になる中、地域住民同士の助け合い活動は不可欠で、「普段やっていないことは、災害時でもできない」とのお話に、日頃からの地域のろう者とサークル会員の交流が困難を乗り越える一番の方法かもしれない・・・と感じました。

【次回定例会】7月14 (土) 10:30~12:00  
かながわ県民センター 12階 ボランティアコーナー

## ～サークル研究班メンバーのささやき～

先日、補助犬のデモンストレーションを観てきました。一緒に行ったサークルメンバーは以前に聴導犬の育成に関わっていたのでその仲間に会いに...

盲導犬・聴導犬・介助犬がそれぞれ舞台上で「お仕事」の様子を披露。ひとつひとつの動作に会場からは拍手がおこる。この拍手が大切だそうです。褒めて育てるんですね。訓練士の目をしっかりと見て真剣そのものだった犬たちも「お仕事」が終わって仕事着を脱いだらしっぽフリフリ。切り替えスイッチがすごいです。

日ごろだったら？と過ごしてる私は見習うべきなのかも^^;  
<補助犬育成の実態調査結果によると盲導犬952頭(H18・3現在)聴導犬12頭、介助犬36頭(H19・3現在)だそうです>

(M☆K)